

医学部

I	教育の水準	教育 4-2
II	質の向上度	教育 4-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 学業や生活、進路等の相談相手となるチューター制度を3年次生から6年次生全員に実施し、教員1名に対して4名から5名の学生を割り当てている。また、学年主任や学生支援室と連携し、学生の教育や支援を行う体制を構築している。
- ファカルティ・ディベロップメント（FD）は、医学教育国際研究センターを中心として、主に外国人研究者を講師に迎え医学教育をテーマにした、東京大学医学教育セミナーと、実践的な教育法の基礎とその理論を学ぶ、東京大学医学教育基礎コース（平成23年度から実施）を毎年度それぞれ10件程度開催している。
- 平成26年度に医学教育分野別認証評価を受審し、評価結果に基づき、教育活動を統括する教学マネジメント機関として教務系ステアリング委員会の設置、アウトカム基盤型教育の方向性の明確化等に取り組んでいる。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 医学科では、フリークォーター（自由研究期間）、MD研究者育成プログラム、臨床研究者育成プログラム等により、研究医・医学研究者の育成に取り組んでいる。
- 医学科では、平成25年度から臨床実習は従来の見学型実習をすべて診療参加型実習（クリニカルクラークシップ）56週に、さらに高度な臨床技術の習得を目指す選択型のエレクティブクラークシップ16週を加え、計72週で実施している。
- 健康総合科学科では、より学際的なヘルスサイエンス教育を推進し、社会の変化に伴う健康問題に対応する教育を行っている。健康科学コースでは実験医学と社会医学の両面からの教育、看護学コースでは附属病院や老人保健施設、保健所等で臨地実習を行っている。
- 医学科では、平成27年度は40名が海外で基礎医学研究を行っており、また、健康総合科学科では、平成27年度の海外研修支援活動により、32名が海外研修に参加するなど、国際社会で活躍できる人材の育成に取り組んでいる。

以上の状況等及び医学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）における標準修業年限内の卒業率は、医学科では97%から100%、健康総合科学科では88%から100%の間を推移している。
- 第2期中期目標期間における医学科新卒者の医師国家試験合格率は、92%から99%の間を推移している。また、健康総合科学科看護学コースの全員が看護師国家試験を受験し、平成22年度から平成26年度における合格率は100%となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 第2期中期目標期間における医学科卒業生の初期臨床研修先は、約4割は医学部附属病院、そのほかは主に都内の基幹病院となっており、初期臨床研修後は、約6割の卒業生は大学院に進学している。また、卒業と同時に基礎医学系大学院へ進学し研究者を目指す学生は、第2期中期目標期間で12名となっている。
- 健康総合科学科卒業生のうち大学院や医学部に進学する者は、平成22年度の約4割から平成27年度の約6割へ増加している。

以上の状況等及び医学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

II 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 国際基準に基づく医学教育の認証評価に向けた取組を行い、ボトムアップ型のFDを開催し、教務系ステアリング委員会の設置、アウトカム基盤型教育の方向性の明確化等の改革に取り組んでいる。また、臨床実習は見学型から診療参加型へ転換し、到達目標を明確にしている。
- 健康総合科学科では、より学際的なヘルスサイエンス教育を推進し、社会の変化に伴う健康問題に対応する教育を行っている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 研究医・医学研究者の育成においては、MD研究者育成プログラム、臨床研究者育成プログラムの推進や、エレクトィブクラークシップ期間における海外での基礎医学研究参加等の取組を行い、医学科卒業と同時に基礎系大学院へ進学する学生は、第2期中期目標期間で12名となっている。
- 平成27年度の健康総合科学科卒業生のうち約6割は大学院等へ進学している。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

2. 注目すべき質の向上

- 国際基準に基づく医学教育の認証評価に向けた取組を行い、ボトムアップ型のFDを開催し、教務系ステアリング委員会の設置、アウトカム基盤型教育の方向性の明確化等の改革に取り組んでいる。
- MD研究者育成プログラム、臨床研究者育成プログラムの推進や、エレクトィブクラークシップ期間における海外での基礎医学研究参加等の取組を行い、医学科卒業と同時に基礎系大学院へ進学する学生は、第2期中期目標期間で12名となっている。